

F五 講社祖靈殿合祀

これの○○家の御霊代に今し厳かにお鎮まり下さいました故○○  
○○刀自之霊の御前に天理教○○分教会長○○○○慎んで申し上げ  
ます

あわれ汝刀自は去る五月三十日長命とは云いながら齡九十二歳と  
いうをこの世の限りとして ゆくりなくも俄に出直されましたこ  
とは 思えばやはり淋しく名残惜しい限りでございます

さはあれ人間というは身の内かきものかりものなれば 生きるも  
出直すも親神様の妙なる御支配であり むしろなってくる一切は  
大難は小難であり 更には又後に続く一同の成人を望まれる上か  
らの深く温かい親心現れであって 必ずふしから芽が出るとも仰  
せ頂いております

汝刀自はこれの○○家の土台として故○○大人を立て 共に御両  
親への孝心はもとより 親族の一人々々への誠を捧げながら 炎熱  
の夏も酷寒の冬も厭わず 朝は早くから夜は遅く迄 己が務めを十  
二分に果たされし長の年月を偲び 改めて現世にありし頃の笑顔  
脳裏に浮かべつゝ、一同と共に改めて厚く厚く感謝申し上げたい  
と存じます

茲に家族親族 親しき人々と共に 只今心を籠めて かくの如く合  
祀祭をつとめさせて頂いた眞実を充分にお受け取り下さいまして  
これの○○家につながる子達孫達の先々に至るまで 一層の陽気  
ぐらしの実が見え これの周辺に より広くより大きく神名の流れ  
て参りますようお導きの程を 一同と共に慎んでお願い申し上げます